

スポーツの見方・ 楽しみ方

6/4(土)~7/2(土)

慶應義塾大学日吉キャンパス

14:00-15:30(90分) 受付開始(13:00) 全5回



◆ 講座スケジュール

第1回 6/4(土) 第4校舎独立館 DB202教室
「水球、リオまでの長き道のりと2020への光明」
峰岸 直人 (ミュンヘンオリンピック水球日本代表・三田水泳会会長)

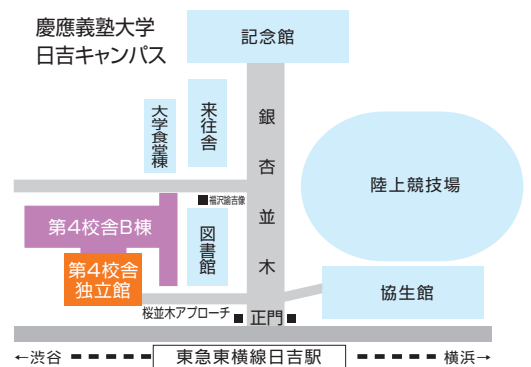
第2回 6/11(土) 第4校舎独立館 DB202教室
「日本テニス界の歩み ~熊谷一弥から錦織圭へ~」
坂井 利郎 (日本テニス協会常務理事 前テ杯日本代表監督 前ロンドン五輪日本チーム監督)

第3回 6/18(土) 第4校舎独立館 DB202教室
「競技会におけるドーピング検査と最近の話題」
石田 浩之 (慶應義塾大学スポーツ医学研究センター 准教授)

第4回 6/25(土) 第4校舎B棟J11教室
「オリンピックレガシーと市民スポーツ」
海老塚 修 (慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授)

第5回 7/2(土) 陸上競技場
「コーディネーショントレーニング ~様々な運動を体験しよう~」
福士 徳文 ほか (慶應義塾大学体育研究所 助教)
(雨天時はスポーツ棟2階) ※この回のみ事前申込みが必要(傷害保険加入のため)

◆ 会場案内図



◆ 募集要項

定員:300名(当日先着順) (7/2のみ1週間前までに申し込み・100名) / 受講料:無料 / 第5回(7/2)の申込方法:ホームページ(<http://www.hc.keio.ac.jp/ja/event/keio-yomiuri2016.html>)より必要事項をご登録の上、お申し込みください。申し込みフォームをご利用できない場合、参加者全員の氏名(フリガナ)・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを明記の上、e-mail、FAXにてお申し込みください。いずれも受付回答はいたしません。定員に達した場合のみご連絡いたします。

◆ 問い合わせ先

〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1 慶應義塾大学日吉キャンパス 運営サービス担当内
「慶應義塾大学・読売新聞市民講座」事務局
E-mail: keio-yomiuri2016@adst.keio.ac.jp Tel.045-566-1000 Fax.045-566-1002



主催:慶應義塾大学
共催:読売新聞横浜支局

講師紹介・講座概要

6/4 (土) 「水球、リオまでの長き道のりと2020への光明」

2015年のアジア予選(対中国戦)のVTRをご覧いただきながら、水球とはどんなスポーツなのか、また、水球の五輪での歴史を紹介します。今回、リオ大会に地区予選を勝ち上がり参加資格得たのは実に44年振りのことでした(84年のロス五輪は繰り上げ出場)。低迷期から復活した背景を探っていきます。あわせて、マイナースポーツ共通の水球界の抱える問題を皆さんと一緒に考えて行きたいと思っています。

峰岸 直人 (みねざし なおと) ミュンヘン五輪水球日本代表、三田水泳会会長

1950年生まれ。慶應義塾高校から水球を始め、慶應義塾大学在学中の1972年ミュンヘン五輪に出場。1974年の大学卒業後は商社に勤務(昨年退社)。

6/11 (土) 「日本テニス界の歩み ~熊谷一弥から錦織圭へ~」

1921年テニ初参加で決勝まで進みその対価で日本テニス協会が設立された。以来、日の丸を背負い世界に挑戦した男女名選手達の足跡をたどる。

テニ杯・フェド杯、グランドスラム大会(ウインブルドン・全米・全仏・全豪)、ATP・WTAプロツアー大会、オリンピック…。

熊谷・清水・原田・佐藤・宮城・加茂・石黒・渡邊・神和住・福井・松岡・錦織・加茂(幸子)・宮城(黎子)…沢松姉妹・佐藤・伊達・沢松(奈央子)・杉山…等の活躍。

70年代から代表選手として・監督・指導者として、TV解説・テニス協会役員として実際の体験を通じたテニス競技の名勝負・難しさ等の講話とさせていただきます。

テニス競技の起源(ルールの変遷・用具の変化・ドーピング問題等)にも触れさせていただきます。

坂井 利郎 (さかい としろう)

日本テニス協会常務理事、前テニ杯日本代表監督、前ロンドン五輪日本チーム監督

1947年生まれ。早稲田大学教育学部卒業。グランドスラム大会本戦3回戦進出(1974年全仏、1973年全英、1971年全米)。1971年テニ杯日本代表選手として50年振りに豪州を破る。1974年、75年全日本選手権単優勝。引退後は男女の日本代表監督を歴任し、クルム伊達公子を個人コーチとして指導。

6/18 (土) 「競技会におけるドーピング検査と最近の話題」

今日、競技会におけるドーピング検査は五輪大会や世界選手権などの国際大会のみならず、国体や学生スポーツでも幅広く行われている。最近ではロシアにおける組織的ドーピングが発覚し話題となった。世界アンチドーピング機構は、ドーピング根絶のために様々な施策を講じているが、一方で、インターネットを通じて違反物質を簡単に購入できる環境も整っているため、全員が“クリーンアスリート”ではないのが現状である。ドーピングは本当に効果があるのか? ドーピングによってどのような健康障害がおきるのか? 近年のドーピングの動向は? などについて、小生が長く国際大会に関わってきた経験を元に解説する。

石田 浩之 (いしだ ひろゆき) 慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授

1987年、慶應義塾大学医学部卒業。博士(医学)

慶應義塾大学医学部内科・老年科を経て現職。専門はスポーツ医学(特に運動療法、アスリートのコンディショニング)、運動生理学。兼任する大学院健康マネジメント研究科では健康科学にかかわる研究指導を担当。

社会活動:日本臨床スポーツ医学会評議員、欧州スポーツ医学会会員、米国スポーツ医学会会員、日本肥満学会会員、日本オリンピック委員会医科学委員(バンクーバーオリンピック、ソチオリンピック日本選手団帯同ドクター)、日本アイスホッケー連盟医科学安全管理委員会副委員長、国際アイスホッケー連盟医事委員、アイスホッケー日本代表(男子)チームドクター、読売巨人軍チームドクター

読売新聞横浜支局長 **谷口 透**

世界最高峰の舞台上で活躍する日本人アスリートは、どうしてもあんなに頼もしく、すがすがしいのでしょうか。これこそスポーツの魔力です。加えて、本講座でトップ選手の人知れぬ努力やスポーツを巡る潮流を知れば、観戦の楽しみは倍増します。身体を動かしたい人には、トレーニングの実践メニューも用意しました。4年後の「東京」を思う存分楽しむために、あなたも五輪イヤーの今年から頭と身体のウォームアップを始めませんか。



6/25 (土) 「オリンピックレガシーと市民スポーツ」

2000年五輪の招致を目指していたシドニーは、環境保全を招致ファイルに盛り込んで、1993年のIOC総会に臨み、有利だとされていた北京を僅差ながら上回って、開催権を手にした。シドニーは「エネルギー保全」、「廃棄物の発生抑制」等の分野で遵守すべき100以上の事項を掲げ、その姿勢は高く評価された。

「レガシー」はシドニー五輪の成果を踏まえ、大会開催の付帯条件としてIOC憲章に加えられたものだ。

前回の東京五輪をゴールとして最新の交通インフラが現実のものとなった。スポーツ施設も誕生した。有形のレガシーである。一方、バレーボールを始め五輪を契機として庶民の間に盛んになったスポーツもいくつもある。1年間に運動した人々の割合は東京五輪以降着実に増加してきた。

2020年のオリパラは私たちに何を遺すだろうか。市民の立場からレガシーを考えてみよう。

海老塚 修 (えびづか おさむ) 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授

慶應義塾大学経済学部卒業。(株)電通でスポーツマーケティング局企画業務推進部長、ISL事業部長などを務め、一貫して国際スポーツのマーケティングに携わった。2010年、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科スポーツマネジメント専攻教授に就任。余暇ツーリズム学会常任理事、日本BS放送(BS11)番組審議委員などを務める。著書に「スポーツマーケティングの世紀」(2001年)、「パリュースポーツ」(2007年)、共著に「オリンピックは社会に何を遺せるのか」(2016年)などがある。

7/2 (土) 「コーディネーショントレーニング~様々な運動を体験しよう~」

「コーディネーション」とは日本語では調整力や協応性と訳されていますが、周囲の状況や用具等の操作にかかわる情報を、五感で察知し、頭で判断して、身体を動かす、といった一連の運動過程を正確に速くスムーズに行う能力のことを指します。一般に「運動神経が優れている」や「身のこなしがいい」、「ボールさばきがいい」といった表現をすることがありますが、このような人たちの動きに隠されているのが「コーディネーション能力」であり、この能力を高めようとするのが「コーディネーショントレーニング」です。今回は、ボールを投げる、キャッチするといった簡単な動きをベースにしなが、あらゆる運動を体験していただきたいと思います。また、スポーツには必ず人と人とのつながりがあり、コミュニケーションを図ることとても大切なことであると考えています。年代や性別に関わりなく、親子でも一緒に楽しめるコーディネーションを体験していただき、人と人とのつながりを楽しみ、身体を動かす楽しさを共有したいと思います。

(実技等の注意事項)

動きやすい服装、運動靴を着用すること。

小学生以上の親子でも参加可能。

雨天時は、内容を一部変更し、室内にて簡単な運動を行う。

福士 徳文 (ふくし のりふみ) 慶應義塾大学体育研究所助教

2011年、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻修了。2014年から現職。専門はスポーツ科学、コーチング。大学では、フットサルの授業を担当。慶應義塾体育会サッカー部コーチ。

慶應義塾大学体育研究所 所長 **石手 靖**

本年8月から9月にかけて、南米ブラジルのリオデジャネイロにおいて、夏季オリンピック・パラリンピック大会が開催されます。4年後に東京大会を控え、多くの方々がこのリオ大会に高い関心を寄せていることと思います。そこで本講座では、オリンピックの歴史や今回の見どころなどを分かりやすく解説できればと考えました。今年も慶應義塾大学・読売新聞市民講座を開催できることをとても嬉しく思うと同時に、日本のスポーツ文化発展のために、スポーツの見方、楽しみ方をお伝えできれば幸いです。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

